

# Platys

[プラティス]

KDU COMMUNICATION MAGAZINE

Vol.03  
2022.1

特集 1 【対談 学長×学部長】

ウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えた  
これからの歯学教育について語り合う

特集 2 【インタビュー 同窓会長×学生】

九州歯科大学  
「歯学科同窓会・口腔保健学科同窓会」の  
現状と未来をリモートインタビュー



### Theme 1 感染症学の視点から、新型コロナウイルスが及ぼした影響

学長： まさに新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るっています。パンデミックという状況下において、大学をどんな考え方で運営をしていくのか、日々の学生の対応、教職員の教育体制の構築などについて、栗野学部長と話をていきたいと思います。

学部長： コロナ危機が2020年から始まり、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発令され、私たちの暮らしは大きく変化し、本学の教育体制にもさまざまな影響がありました。学長は専門の感染症学の立場から、社会に及ぼした影響をどのように感じておられますか。

学長： 私は40年来、国立予防衛生研究所（現：国立感染症研究所）で感染症の研究をしてきました。1999年4月に「感染症法」

が定められ、今はその法の下で感染症がコントロールされています。感染症は目に見えないため、完全に病気を防ぐことが難しいだけでなく、人の心に不安や迷いを引き起こします。対人関係を念頭に入れた対策を取ることが重要だと感じています。

学部長： 感染症の対策として、心の面が大事であることは私も実感しています。まさに教育現場はこのことも注視しながら、日々、学生に対応している状況です。

学長： 本学としては、一貫した教育体制の下で、教職員と学生が不安なく対応できるように対策を進めてきました。新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃、速やかに「COVID-19対策会議」を学内に設置し、私が議長として統制がとれた活動ができるように運営してまいりました。

歯科衛生士の国家試験がありますので、教育の質を落とさず、学生が不利益を被らぬような対応を心がけてきました。

学長： 文部科学省より、今年度は、できるだけ対面授業を実施することが求められています。昨年と比べて、授業はどのように変化していましたか。

学部長： コロナの状況もある程度わかつてきましたので、4月から対面授業を増やし、実習だけではなく通常の講義でも、講堂を利用した対面授業の他、講義室で対面授業を受ける学生と、同じ授業を遠隔で受ける学生

2つのグループに分けた「ハイブリッド授業」を実施しています。

結果的には、前期は緊急事態宣言が長く続いたため、遠隔授業となった期間もありましたが、1年生に関しては早い段階から同級生と接触する機会をつくるため、メンタル面に配慮して、感染対策に留意しながらできるだけ対面授業を実施しました。クラブ活動等は昨年からずっとできない状況でしたが、秋からは少しづつ活動が再開され、新しい生活様式に準じた中で、大学生らしい生活ができる状況になってきたと思います。

### Theme 3 ウィズコロナにおける知識・技能・態度教育※について

学長： 本学は医療系の小さな單一学部大学であり、それを個性として教育を進めています。歯科医療の教育において大事なのは、知識・技能・態度教育の3つの柱です。「知

ます。コロナ世代だから技術が伴っていないなどと社会の冷たい目に遭わないよう、教職員が語り合いながら努力してきたと理解していますが、この方法が本当に歯学教

## ウィズコロナ・ポストコロナ時代を見据えた これからの歯学教育について語り合う

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大  
ウィズコロナにおける学部教育の変化や、今後

は、大学教育にも大きな影響を及ぼしました。  
のあり方について、学長と学部長が対談しました。

### Theme 2 ウィズコロナにおける学部教育の変化

学長： 栗野学部長から、ウィズコロナにおいて歯学科及び口腔保健学科の教育をどのように流れで行ってきたか、聞かせてもらえますか。

学部長： 2020年の新学期が始まる前、コロナによって通常の対面授業ができないことを想定し、3月から準備を行ってまいりました。

本学は、教育改革の一環でeラーニングシステムであるMoodleを導入していたのですが、運用に関しては一部の教員の授業のみに限られておりました。教員も含めて話し合い、このシステムを活用して遠隔授業を行うことを4月に決定。さらにMicrosoftのTeamsというシステムも併用し、運用方法について周知したうえで遠隔授業を5月から開始しました。

新生入に関しては、最初から遠隔授業となると混乱を来すため、感染対策をしっかりと

行ったうえで広い講堂等を利用して、対面授業を一部取り入れました。

学長： 病院実習、臨床基礎実習などの実習科目に関しては、どのように対応してきましたか。あわせて、遠隔で対応できない授業について、どのように進めていったかあらためて聞かせてください。

学部長： 遠隔授業が可能な内容もありましたが、ほとんどの実習科目はやはり対面での授業が必要でした。歯学科では1学年約90人、全員では密になるため、2グループに分けて実習を実施しました。

病院実習に関しては、昨年の5月、6月は中断せざるを得ない状況でしたが、それ以降は密を避けながら、通常の実習を行ってまいりました。コロナ禍でも、最終的に歯学科は歯科医師国家試験、口腔保健学科は

知識教育」については、ITを活用して取り組み、新しい学習をより進化させる「ウイズコロナの時代であったと言えます。

一方で、手仕事が基本となる歯科医療において、「技能教育」は大変だったと思います。臨床基礎教育における苦労の一端を、説明してください。

学部長： 教育課程の中で、カリキュラムとして定められている授業があります。まずは、いかに実行していくか検討しました。密を避けるために2グループに分けるとなると、時間も半分になってしまいます。eラーニングシステムで事前学習を行い、しっかり予習をしてから授業を受ける流れを確立しました。今まで行っていた実習中の説明を減らすこと、短い時間でも集中して取り組むことができました。

学長： 我々は歯科医師、あるいは歯科衛生士として送り出すことを社会から託されてい

育を担保できたかという検証は、常にしているかなければなりません。

学部長： 「態度教育」については、私もまだ完全に回答が出ていないところです。リモートで授業を受けると、集中でき勉強になったという学生がいる一方で、なかなかモニター画面だけでは講義が頭に入らない学生もいます。システムで出席管理はできているものの、パーソナリティによって受け方が違うとすれば、情報を分析して授業を開いていく必要があります。さらに、生活環境を整えたり、時間を管理したりするのが苦手な学生にとっては、オンライン授業は難しい面はあると思います。学生が顔出しをしないオンライン授業では、実際に学生が聴講しているのかわからず、不安を感じる教員もいます。そこで、オンライン授業では、授業中に課題に取り組む時間をつくったり、授業の後に課題を提出するなど、学

公立大学法人九州歯科大学  
理事長・学長  
**西原 達次**

1952年生まれ。東京都出身。九州歯科大学歯学部卒業。東京医科大学大学院歯学研究科修了、歯学博士。米国テキサス大学ヘルスサイエンスセンターにて在外研修、国立予防衛生研究所（現在の国立感染症研究所）口腔科学部歯周病室長を経て、1999年九州歯科大学教授に就任。2006年同理事・歯学部長、2012年より現職。

公立大学法人九州歯科大学  
歯学部・学部長  
**粟野 秀慈**

1965年生まれ。北海道出身。九州歯科大学歯学部卒業、九州歯科大学大学院歯学研究科修了、歯学博士。航空自衛隊歯科医官、九州歯科大学助手、同講師、2004年文科省在外研究員（英国リーズ大学）を経て、2015年九州歯科大学教授に就任。2016年同附属病院副病院長、2020年より現職。



生ができるだけ主体的に授業に参加できる仕組みをつくり、デメリットを解消できるように工夫してきました。一方、事前学習や課題が増えたことで、自宅学習の時間が増加したことがわかりましたので、負担が大きくなりすぎないように少し修正も図ってきたところです。今後ポストコロナになっても、いかに学生がしっかり授業に参加して主体的に取り組んでいけるか、大学としても考えながら環境を構築していく必要があると考えております。

学長：2019年まで1泊2日で行ってきた1年生の「宿泊研修」について、今の状況をお知らせいただけますか。

学部長：本学では、歯学科と口腔保健学科の1年生を対象に、

#### 第4 ポストコロナにおける歯学教育のあり方

学長：ウイルス感染症は波が小さくなったとしても、完全に収束するまではまだ時間がかかるとの意見がある中、ポストコロナを見据えて、本学の教育活動をどのように工夫し、展開していくか、述べてもらえますか。

学部長：「ピンチはチャンス」と捉えてこの状況を活かし、主体的な学習ができる土壤を育てていきます。本学では遠隔授業でITを取り入れてきた経緯がありますので、ポストコロナにおいても、ITを教育の手段として実践的に活用していきたいと考えています。教育のあり方としては、「教えることから評価へ」という流れを構築していきます。我々はどうしても教えるほうに比重がかかってしまいますが、しっかりした評価は非常に大事です。評価によって学生は目標が明確になり、主体的な学習のきっかけになります。個々の着実な成長を大事にしていきたいと思っています。

ポストコロナにおいても、患者さんのご理解をいただきながら臨床実習をさらに充実させ、大学の歯学教育をリードできる存在になっていければと考えております。

学長：理事長としての立場でできることは、やはり教育に対する投資だと思っています。人材を適所に配置する柔軟なシステムや、より効率的な歯科医学教育ができる体制の整備。コロナでの意識変容は、変わるべきチャンスと私は考えています。学生諸君が「九州歯科大学に入って良かった」という思いで卒業してもらえるよう、ポストコロナにおいても教職員が一体となって、社会の変化に適応し、優秀な実践的歯科医療人の育成を推進していきますので、よろしくお願いします。

学部長：大学の教育システムの変革には当然、組織体の変革にもつながってきます。我々は学生を中心にサービスを提供していますが、働いている教職員も三位一体となっていかないと、おそらく成功できないだろうと思います。教育を充実させていくために、教員や職員が働きやすい職場環境づくりをしていただくことも、学部としては大学にお願いしたいと思っております。

通称「WADS(ワズ)キャンプ」という宿泊研修をしてきました。昨年度はコロナの状況下で中止となり、オンラインを用いたグループワークを行いました。今年度も宿泊研修はできませんでしたが、感染対策に注意しながら、対面でのグループワークなど直接話ができる内容に変更して実施しております。同級生と話しやすい環境をつくり、教員ともつながりを持てるように、工夫してきたと感じています。

※知識・技能・態度教育について  
本学においては社会が求めている知識・技術・態度を教育の柱とした講義・実習を重視した教育を展開しています。ここでの知識とは備えるべき標準的な歯科医学の総合的知識、技能は基本的診療技能、態度は歯科医療人として患者様と良好な関係を築くコミュニケーション能力等の態度のことを指します。



学長：本学では、2025年の地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域社会において多職種と連携し、医療活動ができる歯科医療人の養成を目指しています。また、今後の医療を見据えて、医科と一体となって歯科医療を実践できる人材育成を、ポストコロナでさらに推進していくことを掲げています。

学部長：地域包括ケアシステムの構築は、社会が必要とする新しい医療体制として、今まさに準備が進んでいます。歯科医療にとって今までと違うのは、診療室で行う待ちの診療ではなくて、地域に出て行く診療になるという学長のお考えは十分に理解しています。歯科治療だけではなく、口腔ケアの必要性もますます高まり、歯科医師と歯科衛生士がチームとなって動くことが求められています。こうした中で、附属病院での実習に合わせて、大学が教育連携協定を交わした地域の総合病院や、老健施設等を持っている病院の協力を得ながら、2018年から行っている医科・歯科連携教育をさらに推進していきたいと考えています。

西原学長が言われたように、おそらく歯科医療そのものが医科と一体となる方向にシフトしていきますので、学生が将来困らない教育を展開できるように、教育課程の内容も少しづつ変更を加えています。

学長：本学は小さな大学ですが、公立大学としての特徴を示すことで存在感のある大学でありたいと思い、運営してきました。これからもその心は失わずに進んでいきます。新型コロナウイルスであってもしっかりととした教育を行い、より発展していけるよう教職員が一丸となって力を尽くしていきましょう。

## 同窓会長への学生

# 九州歯科大学 歯学科同窓会・口腔保健学科同窓会の 現状と未来をリモートインタビュー

九州歯科大学歯学科、口腔保健学科の2つの同窓会のそれぞれの活動についてお聞きしました。

九州歯科大学歯学科同窓会は、前身である九州歯科医学専門学校の第2回目の卒業式と同時に大正15年3月、校友会として発足しました。福岡県立九州歯科大学となった昭和24年4月、九州歯科大学同窓会と改称、再編成。現在は片山 幹夫第7代同窓会長に引き継がれ、会員数は約4,500名。女性が少なかった時代もありますが、徐々に比率が増えており、50歳以下では全体の4割が女性会員です。

同窓会会則には、「母校の発展」、「歯学の向上」、会員のいろいろな生活においての手助けをする「会員の福祉増進」と「会員相互の親睦」の4つの目的を掲げるとともに、大学と「包括的連携協定」を締結し、共に発展、歯科医療を通じて社会に貢献するという理念のもとに活動しています。

また、九州歯科大学口腔保健学科同窓会は口腔保健学科設立時、冬に忍ぶと書き「すいかずら」と読む、「すいかずら



学生交流会(平成30年7月4日)片山会長のテーブル

会」として2010年に発足しました。その前の歯科衛生学院から続く70年以上の伝統があり、全国でも最も古い同窓会となります。会員数は全体で500名程度で、口腔保健学科では247名。ほとんどが女性会員です。

現在、大分県歯科衛生士会会長も兼ね、就任2期目の有松会長のもと、在学生との交流をはじめ、卒業生の近況報告や学術研修会などを開催。予防を専門とする歯科衛生士の知識やスキルを発揮する時代が到来しつつある中、どのような状況下においても、強くしなやかに開花する原石をサポートする会でありたいと考え、同窓会活動を行っています。

今回、熊本県在住片山会長、大分県在住有松会長お二人の同窓会長と、歯学科在学生、口腔保健科在学生をそれぞれリモートで結び、「現状の同窓会と描かれている未来のカタチ」についてインタビューさせていただきました。



会員の知識と親睦を深めるため、毎年学術研修会を開催



# 歯学科同窓会の活動と展望、学生へのメッセージを 片山 幹夫 同窓会長が和やかに語る。

KUMAMOTO

KITAKYUSHU

interviewee 九州歯科大学同窓会 会長 片山 幹夫さん

九州歯科大学歯学部歯学科(17期)卒業。熊本県出身。高校時代から始めた弓道を大学時代も続け、部活に打ち込む学生生活を送る。卒業後は熊本市内の歯科医院に勤務し、1974年に同市で片山歯科医院を開業。2015年、第7代同窓会長に就任。

interviewer

[歯学科1年]  
秋山 恵利佳さん

[歯学科6年]  
蓮井 友統さん



**Q 同窓会活動の目的と、活動内容について教えてください。  
(秋山)**

同窓会の会則では、4つの目的を掲げています。まずは母校の発展を支える活動です。さらに歯科医学の向上、会員の福祉増進、そして私が一番大事だと思っているのが、会員相互の親睦です。

主な活動内容は、学術講演会や各種セミナーの開催です。会報誌は1969(昭和44)年から発行しており、年明けには102号が配布されます。会員さんが病気や災害にあったときの見舞金、亡くなられたときの弔慰金など、福祉面の活動もしています。学生への支援も含め、いろいろな活動を行っています。

**Q 同窓会にはどんな先輩方がいらっしゃいますか?  
(蓮井)**

歯科医師として勤務や開業をしている人がほとんどですが、資格を活かして地方自治体や企業で働いている人もいます。診療をするだけではなく、歯科に関する製品を開発するなど、歯科医師の職場はさまざまです。

**Q 女性の会員はどのくらいでしょうか?  
(秋山)**

昔は女性が少なかったのですが、今はかなり増えていますね。50歳以下では4割ほどが女性です。現在、同窓会には女性会員を対象とした「リーフの会」があり、情報交換や親睦を深める活動をしています。コロナ前は小倉や福岡で集まっていましたが、幸か不幸かWEBでミーティング



ングになったことで、全国各地から参加する女性たちが増えています。

**Q 九州歯科大学ならではの特色があればお聞きしたいです。  
(蓮井)**

全国各地の支部会に参加して来賓の歯科医師会の会長さんにお会いすると、「九州歯科大学の卒業生はいいですね」と、よく言われるんですよ。性格の良さを褒められることが多いです。質実剛健な校風、唯一の公立大学なども特徴だと思います。



同窓会の特色としては、活動が活発なことですね。他大学と比べても行事が多く、歯学部のある29大学の中でも一番だと感じています。

**Q 大学との連携関係について教えてください。  
(秋山)**

一昨年、同窓会は大学と「包括的連携協定」を結び、お互いに協力し合う意思を確認しました。共に発展し、歯科医療を通じて社会に貢献するという理念のもとに活動しています。学術講演会や会議などで大学を使わせていただいたり、あるいは行うときに同窓会が手伝ったりするなど、お互い協力しています。

同窓会と大学は車の両輪。車は普段は右も左も勝手に動きますが、前に進むときは一緒に回っていきます。同窓会と大学もそれぞれ活躍し、共に進むべきときは協力し合う関係でありたいですね。

**Q 学生の私たちと同窓会は、どんな関わり合いがあるのでしょうか?(秋山)**

同窓会では学生交流会を開き、大学生の皆さんと先輩たちがふれあう場を設けています。歯科医師になってからの苦労や、良かったことなど生の声を伝え、将来の参考になればと思っています。講演会や懇親会を開いていましたが、残念ながら最近はコロナの関係で中止または延期となっています。

また、国家試験の受験料を補助する金銭的な支援や、CBT模擬試

験の支援をしています。国家試験終了後には同窓会の役員と卒業生で慰労会を開き、卒業後に必要な情報提供を行うなど、さまざまな関わりを持っています。

**Q 卒業して歯科医師になった後は、どのような関わり合いがありますか?地元に帰ったときの支部組織についても教えていただきたいです。(蓮井)**

同窓会と関わるには、まずは入会をお願いします。都道府県の同窓会では、学生さんが卒業したらお誘いするようにしていますが、連絡先がわからず声をかけられないのが実状です。本部でもよいので連絡先を教えてください。意思表示をすれば、入会や移動の手続きは簡単にできます。正月や夏休みなど帰省したときに、同窓会の懇親会に参加して交流していくと、卒業後もスムーズだと思います。

帰郷して開業する際には、資金繰りも含めた相談や、診療所の見学を受け入れるサポートもしています。生涯にわたって頼りになる仲間として、同窓会を利用していただきたいですね。

**Q 都道府県同窓会と地区連合会について知りたいです。  
(秋山)**

同窓会の全国組織には福岡、西九州、東九州、中国、四国、近畿・北陸、東海、関東、東北・北海道の9つに地区連合会があり、それぞれの都道府県に同窓会があります。

地区連や都道府県の同窓会でも、本部と連携して学術講演会を開いています。

9地区連のなかで、人数が圧倒的に多いのは福岡で、九州の各県が続けます。今では交通の便が良くなったので、東京、大阪、兵庫などいろいろな地域の会員も増えています。

**Q 今後の同窓会の展望についてお聞かせください。  
(蓮井)**

コロナ禍で今までしてきたことができない状況が続き、ウィズコロナでどのように活動していくのか検討しているところです。会員同士の

懇親を一番大事にしているので、本当は対面で催し物をしたいのですが、WEBも活用しながら幅を広げていこうと考えています。会員同士が懇親を深めて絆を育むために、質を落とさずに活動を続けていきたいですね。皆さんのが入会しやすいように、会費を少し下げるこも課題として検討しています。

また、永久に同窓会が存在するかというと先はどうなるかわかりません。だからこそ会員同士の気持ちの絆を大事に考え、みんなで懇親を深めてできるだけ続け、安定した歯科医療を通じて地域の皆さんに貢献することが同窓会の社会貢献かななど私は思っています。

同窓会は5年後に100周年を迎えます。大きな節目をみんなで祝い、やって良かったと思うような記念行事をしたいと思っています。



**Q 歯科医師のやりがいについて、聞かせていただけますか?  
(秋山)**

治療が終わった後に、「ありがとうございます。おかげさまで」と言われるのが一番うれしいですね。歯科は治療による変化がわかりやすく、徐々にきれいになる過程を見るのは非常にやりがいがあります。

余談ですが、私は今、おもちゃ病院の活動をしていて、歯科診療で使う道具と材料、矯正のバンドも使うのですが、それでおもちゃを修理しています。歯科治療に通じるものがありますね。

**Q 在学生や若い先生へのメッセージをお願いします。  
(蓮井)**

学生さんは国家試験に通ることが最初の目標なので、勉強を頑張ることは当たり前なんですが、遊びも大事にしてほしいです。部活動や趣味などを楽しみ、悔いのない学生生活を送ってください。歯学科だけではなく口腔保健学科の学生さんにも、今の生活を一生懸命楽しんでいただきたいです。若い先生に対しては、ぜひ先輩を頼ってほしいですね。どんなことでもいいので、困ったことがあれば遠慮せずに同窓生の力を借りてほしいと思います。

# 口腔保健学科同窓会の活動と展望、学生へのメッセージを 有松 ひとみ同窓会長がやさしく語る。

**Q 同窓会活動の目的と、活動内容について教えてください。**  
(松本)

同窓会の会則では、会員同士が親睦を深め、医療人として研鑽し、さらに歯科衛生士としての社会的地位を向上させる、という活動目的が掲げられています。

主な活動内容は、年1回の学術研修会です。いろいろな卒業生が集まって、歯科衛生士の仕事について話をしています。いいことばかりでなく、困ったことや挫折したことなど生の声を聞けるので、将来何かあっても乗り越えていけるヒントをたくさんもらえます。

**Q 同窓会にはどんな先輩方がいらっしゃいますか?**  
(松本)



「すいかずら会」は、歯科衛生学院を入れると70年以上の伝統があり、口腔保健学科としては日本で一番歴史のある同窓会です。年齢層が広いのでリタイアされた方もいますし、現役で仕事をしている方もいます。現役が圧倒的に多く、全国各地の歯科医院、大学病院、総合病院、行政機関、企業などで皆さん活躍しています。

**Q 口腔保健学科同窓会の特色があればお聞きしたいです。**  
(伊東)

歴史があり、全国に卒業生がいることが強みです。私は学会でいろいろな県に行くことが多いんですが、九州歯科大学の卒業生と言うだけで距離が近くなるのでありがたいですね。歯学科と口腔保健



学科の同窓会は別組織ですが、学生交流会では一緒にイベントをするなど、つながりがとても深い特色があります。その一方で、それぞれのニーズに合わせた活動ができるることはメリットになっています。

**Q 在学中の私たちと同窓会は、どんな関わり合いがあるのでしょうか?(松本)**

今はコロナで実現できていませんが、皆さんのサポートについていろいろ検討しています。例えば、病院や行政などさまざまな場で働いている卒業生を呼んで、直接対面で話を聞く機会を設けたいと考えています。一生懸命働いている歯科衛生士の具体的な経験談を伝えることで、キャリアデザインがイメージしやすくなるのではないかと思います。



**Q 卒業して歯科衛生士になった後は、どのような関わり合いがありますか?(伊東)**

皆さんは在学中には学ぶ立場ですが、卒業後は学術研修会などを発信する側になります。歯科衛生士の仕事について、実体験を通して学生さんに伝えるのはとても大事です。同窓会というのは、継承していくことに大きな意味があります。

いろいろな卒業生がいるので、何らかの形でサポートや助言はできます。学会に行ってみたいなど、何かあれば同窓会に声をかけてください。

**Q 出産・結婚したときに、復職でサポートいただけることがあれば教えてください。(松本)**

結婚や出産となると、地元だけではなくいろいろな地域に行くことになると思います。同窓会では連絡網で情報共有をしており、人脈を通していろいろな情報が入ってきます。ご相談いただければ、人を紹介するなどサポートさせていただきます。

将来的には、LINEなど皆さんに身近に使っているSNSを通して、情報を発信できるような取り組みを始めているところです。

**Q 今後の同窓会の展望についてお聞かせください。**  
(伊東)

いろんな歯科衛生士を招いて今の現状をお話していただく機会や、コロナ禍でオンラインが一般的になってきたので、オンラインの実技レクチャーができたらいいなと考えています。実技レクチャーというのは、例えば歯科衛生士が歯周病ケアをしている手元を映し、学生さんがスマホを使って短い時間で勉強できるようなイメージです。皆さんをさらに輝かせるためのサポートを同窓会がしていき、私自身の経験から国際的な発信をしてみたいという想いもあります。

**Q 海外で活動をしている卒業生について教えていただけますか?**  
(伊東)

人数まではわかりませんが、私以外にも海外で活動をしている人はいます。アメリカで活動をしている人や、青年海外協力隊でアフリカで2年歯科衛生士として仕事をした人とは、直接つながりがあります。いろんな経験値を持った同窓生がいますので、海外の活動に興味があれば、話を聞くだけでも自分のやりたいことが見えてくると思います。

**Q 社会貢献活動などについて教えてください。**  
(松本)

歯科衛生士は今、いろんな場面で求められています。例えばコロナ対策として歯科領域は非常に大事だとわかつきましたし、近年増えている災害においても必要な職種として認められています。

世界中には歯科衛生士がない国がまだ多く、歯科衛生士による国際貢献活動も必要とされています。世界の歯科衛生士の組織では、歯ブラシの買えない子どもに配布する活動などが行われています。同窓会としても、社会貢献に何か関わりが持てればと考えているところです。

**Q 災害時の歯科衛生士の役割について教えていただけますか?**  
(伊東)

災害にはさまざまなフェーズがあります。まずは命が守られること。次のフェーズでは、生命を維持していくことが大切になります。水や歯ブラシを確保して口の清潔を保ち、感染症を起こさないためにも、災害時に歯科衛生士が果たす役割は大きいのです。

避難生活において嚥下の問題も重要で、誤嚥性肺炎を防ぐことは歯科衛生士の使命だと思います。災害時には組織として情報を共



有しながら、歯科衛生士が被災者の方の生活に寄り添い、健康を支えていくことが大事な役割ではないでしょうか。

**Q 在学生や若い卒業生へのメッセージをお願いします。**  
(松本)

世界的なパンデミックがあり、私たちは防ぐことの重要性を改めて認識しました。感染対策は大きな共通概念になったと思います。歯科衛生士は、世界で唯一、医療分野で予防を専門とする職種です。活躍の場は、皆さん想像している以上に広がっていくと、私は信じています。

さらに、日本は世界でも類を見ない超高齢社会です。年を取っても元気でいましょう、介護予防しましょうというのが、世の中の方向性です。ここがまた歯科衛生士の力の見せどころ。口の中の疾患は全身疾患と深く関わっています。生まれてから最後の時を迎えるまで、歯科衛生士はすべてのライフステージに応じて予防を担えるのです。

歯科衛生士は今の時代にとても合った職種で、大きな可能性があります。誇りを持って、歯科衛生士の未来を皆さん的手で明るくしてください。

**Q 歯学科の学生へのメッセージもお願いします。**  
(伊東)

歯学科と口腔保健学科は、九州歯科大学ならではの密接な関係性があります。今後もベストパートナーとして、互いに尊重し合い、高め合う存在であってほしいですね。



KITAKYUSHU OITA

interviewer

[口腔保健学科 1年]

松本 爽花さん

[口腔保健学科 3年]

伊東 璃玖さん

interviewee 九州歯科大学口腔保健学科 会長 有松 ひとみさん

九州歯科大学附属歯科衛生学院(16期)卒業。一般歯科医院に4年間勤務した後、母校の専任講師を務める。結婚・出産を経て大分県在住。行政の歯科衛生士として摂食機能療法に携わる。大分県歯科衛生士会会长。2019年、同窓会長に就任。

## 片山同窓会長との リモートインタビューを終えて



歯学科1年  
秋山 恵利佳さん

片山会長から、たくさんのお話を伺った中でも、「同窓会は生涯頼れる仲間」とおっしゃったのが1番印象的で心に残っています。

卒業後も強いつながりのある九州歯科大学同窓会に入会していると、全国各地で学術講演会や交流会を通じて、たくさんの先生方からいつも新たな刺激を受けられることを知ることができとてもよかったです。

ユーモアがあって、誰が聞いてもわかりやすいお話をされていた片山会長のような歯科医師を目指して、今後の学生生活を送ろうと思います。



歯学科6年  
蓮井 友統さん



私は、来年度より歯科医師として新たな道へ踏み出すにあたり、期待とは裏腹に不安がありました。しかし今回のインタビューを通して、全国各地にある支部を中心に、医院の見学や、勉強会への参加など、同窓会の先生方がさまざまなサポートをしてくださることを知り、とても安心することができました。

また、このような特色を持つ九州歯科大学同窓会は、誇るべき財産であり、私たちは受け継いでいかなければならないと強く感じました。

この度は、貴重なお話をありがとうございました。



## 有松同窓会長との リモートインタビューを終えて



口腔保健学科1年  
松本 爽花さん

1年生なので、まだ歯科衛生士になるという実感が湧いてないのが現状なのですが、同窓会会長との対談を終えて、改めて歯科衛生士という職業に魅力を感じました。

歯科衛生士は歯科医院、病院、企業だけでなく災害地、発展途上国など活躍できる場所は本当に多く、やりがいを感じる職業だと思いました。

とても長く続いている同窓会なので、災害地や発展途上国といった現場で働く同窓会会員の方もいらっしゃると聞き、就職の際やボランティアで世界各地に行くようなことがあっても先輩方が居ると心強いなと感じました。



口腔保健学科3年  
伊東 璃玖さん

今回のインタビューは、同窓会の実態や活動内容だけでなく、歯科衛生士としての役割や海外の歯科衛生士についてなど、さまざまなことを教えていただく非常にいい機会でした。

私たちが九州歯科大学で学び、卒業・就職に至るまで支援を受けられる場が設けられていることを実感し、恵まれた環境の有り難さを再確認することができました。また、卒業後は、情報を受信するだけでなく、学生・後輩に発信する立場として、積極的に参加していきたいと感じました。

### 余談・心に響いたいい話 片山会長の「おもちゃ病院」への思い

**Q** ネットでおもちゃ病院を見て、100円で直しているのを知りました。100円というのは、なんでかなと思ったのですが、教えていただけますか?(蓮井)



子どもが壊れたおもちゃを捨てる事なく修理して、また使ってもらうというおもちゃ病院は、全国にいっぱいあり、おもちゃ病院協会というのがあって、会員が何百件あります。そこではボランティア活動ということで無料が原則になっているんだけど、僕は無料ということには反対なんです。

壊れても持って行けば“タダ”で修理してくれてまた遊べる。また壊れれば“タダ”でもらえるからいいや”ということではなくて、「壊れたらそれを修理するには費用がかかる」モノが壊れればそれだけ対価が必要なんだよ」ということも一つの教育かなと私は思っています。

100円に設定したのは、子どもが出せるのは100円かな。小学生あたりは100円でも高いかもしれないけど、あえてもらうようにしています。

**Q** おもちゃ病院で「矯正のバンド」を使われているのは、どうしてですか?(秋山)

昔は勤めていた歯科医院で、矯正専門医じゃないけど、矯正をやっていたんですよ。だけど他の治療の方が忙しくなり、矯正是専門家に任せたらいいかなと思ったので、材料が余っていました。

おもちゃを修理する道具と材料が歯科の診療とまったく一緒。これはいいですよ。特に「即重レジン」とか万能ですよ。

### 余談・心に響いたいい話 有松会長が語る「世界の歯科衛生士の現状」

**Q** 有松会長自身も海外でボランティアをされていたとお聞きしましたが、海外の歯科衛生士の現状を教えてください。(松本)

私は20年以上継続して、ベトナムでボランティアを行っています。来年は新しい事業として、歯科衛生士がいないベトナムに、歯科衛生士が初めて入って、ベトナムの政府機関の保健省と一緒に仕事をすることになりました。

アジアでは、歯科衛生士という職種がない地域がまだたくさんあります。お話をしたようなベトナムの動きもありますし、こうした国々を支援する歯科衛生士がこれから増えていくと思います。

ちなみに、伊東君のように男性の歯科衛生士は世界では非常に多く、活躍しています。例えばイタリアは、3年以上の数字なのでちょっと今とは違うかもしれませんけれど、8,000人の歯科衛生士のうち1割の800人が男性の歯科衛生士です。お友達であるイタリアの男性歯科衛生士と、国際学会でお話ししたこともあります。ロシアも結構男性が多く、そういう意味では男性の歯科衛生士が、これから日本の新しい風を担うと思います。

**Q** ところでお二人は、歯科衛生士としての「国際貢献」をどのように考えておられますか?(有松会長)



私は国際貢献というのがこれからの自分にとって大事だなと思っているので、歯科衛生士のいない国で、歯科衛生士ができる予防活動について、同窓会とも何か繋りが持てたらいいのかな、と考えているところです。(伊東)

## 5月21日(金)

## 歯学部の1年生に向けたWADSキャンプを実施しました

WADSとは"We Are Dental Students"の頭文字をつないだものです。例年ですと歯学科・口腔保健学科の1年次生を対象にした一泊二日の外部宿泊研修で、テーマを設け実施しています。今年度はCOVID-19<sup>※</sup>感染症拡大防止のため学内で一日のみの実施となりましたが、2年ぶりに実施することができました。

自分たちが将来かかわっていく歯科医療人について「どのような職業か?」「その職業に抱く夢とは?」「夢を実現するために送る学生生活とは?」といったことを、新入生同士で語り合い、多くの仲間と学科の垣根を越えた絆を育みました。

互いの考え方や意識を共有できるWADSキャンプは、学生たちにとって充実した大学生活への一歩を踏み出すきっかけとなっています。



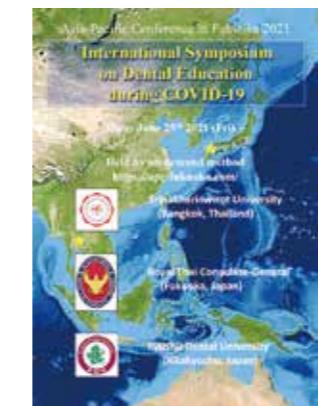
## 6月25日(金)～9月30日(木)

## Asia Pacific Conference(APC) in Fukuoka 2021をオンデマンド形式で実施しました

今年度のAPCはCOVID-19<sup>※</sup>感染症拡大の防止のためWEB形式で開催しました。本学学長挨拶の後にタイ王国シーナカリンウイロート大学のDr. Narongsak Laosrisin副学長、Mr. Attakarn Wongchanamas在福岡タイ王国総領事、山本幸三衆議院議員からのスピーチが行われました。

次にシーナカリンウイロート大学のDr. Nathawut Kaewsutha歯学部長と本学の歯学部長の基調講演があり、その後本学歯学研究科を修了したWichida Chaweevannakorn博士とChuencheewit Thongsiri博士の特別講演が行われました。

また、APCにおいてはポスター発表も行われ、21題の発表がありました。加えて、参加者アンケートから「国際交流について興味を持ちました」「動画配信のため、巻き戻しや、一時停止したりしながら自分のペースで視聴ができる」など、多くの学生や教員から評価の高い意見が見られました。



## 6月30日(水)～

## 2021オープンキャンパスを実施しました

COVID-19<sup>※</sup>感染症拡大防止のため来場型のオープンキャンパスは中止とし、昨年度に引き続き、九州歯科大学をより詳しく知って身近に感じていただくためにWEBオープンキャンパスを実施しました。

WEBオープンキャンパスでは、歯学部長・各学科長による学部・学科紹介動画、施設探検(360°パノラマビュー)等のコンテンツを掲載し、施設探検では、学内の講義室や実習・演習室、附属病院のほか多数の施設の紹介を行っております。

また、7月下旬から8月下旬にかけて、オンライン個別相談会を開催し、教職員が各学科のことや入試制度等について高校生等からの質問にお答えしました。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



## 7月2日(金)・7月30日(金)

## 新型コロナワクチンの「大学拠点接種」を実施しました

接種を希望する学生及び教職員をはじめ、本学に実習のため来校する専門学校生徒等を対象とした新型コロナワクチンの「大学拠点接種」を本学附属病院で実施しました。

接種は本学附属病院の医師、歯科医師、看護師、薬剤師、事務部の方々にご協力いただき、大きな混乱もなく円滑に終えることができました。本件について、ご協力をいただいた医療従事者、教職員に御礼申し上げます。

また、北九州市の要請により、7月から9月まで北九州市民を対象とした「歯科医師によるワクチン接種」の協力を行いました。



附属病院内接種待機場所

## 7月20日(火)

## 福岡県立八幡高等学校のキャンパス訪問

福岡県立八幡高等学校の生徒4名と教諭1名の皆さまを本学へお招きし、大学の施設や解剖実習の見学、模擬実習、入試説明会等を実施しました。

このキャンパス訪問は、実施プログラムを通して大学の雰囲気を高校生に体感していただき、進路を考える際の参考としていただくことを目的として実施しているものです。今回は、エアスケーラー(空気の力でチップやブラシを振動させ、歯石の除去や歯面清掃を行う機器)を使用してうずらの卵の模様を除去するスケーリング(歯面沈着物を機械的に除去)を行う、本学ならではの模擬実習を実施しました。

福岡県立八幡高等学校の皆さまありがとうございました。高校別のキャンパス訪問について、ご興味がありましたら本学HPをご確認のうえ、ご連絡ください。



① 模擬実習の説明を聞く福岡県立八幡高校の皆さん

## 9月30日(木)・10月21日(金)

## 海外の大学とオンライン国際交流プログラムを開催しました

本学では学生の国際的視野を広げ、国際的コミュニケーション能力を身につけることを目的として、本学と連携協定を締結している海外の歯科大学・歯学部と国際交流事業を実施しています。例年は学生を海外協定大学へ派遣、または受入によって国際交流を行っていましたが、2021年度はCOVID-19<sup>※</sup>禍の影響により派遣及び受入が中止となったことから、Webミーティングアプリを利用したオンラインプログラムを開催いたしました。

プログラムの参加者である歯学部学生5名は9月30日(木)にタイ王国のシーナカリンウイロート大学学生と、また口腔保健学科3名は10月21日(金)に台湾の高雄医科大学学生と、英語による自己紹介や自己紹介、大学生活についてプレゼンテーションを行い、相互に質問回答などを行いました。

現在、海外への渡航が困難な状況ではありますが、意欲ある学生に対しオンラインながらも世界と繋がる体験を提供することができました。開催にあたりご賛同いただいた連携先の大学をはじめ、関係者の皆さまに御礼申し上げます。

なお、本プログラムにおける修了証授与式は12月23日(木)に行われました。

## 11月17日(水)

令和3年度 解剖献体者慰靈祭  
並びに実験動物慰靈祭を執り行いました

本学講堂にて、令和3年度九州歯科大学合同慰靈祭を執り行いました。COVID-19<sup>※</sup>感染症の拡大防止対策を行ったうえで参加者の規模を縮小して実施しております。

ご来賓及び教職員・学生代表が参列し、歯科医学の発展と、本学の教育・研究のために献体されました御靈に対し、敬意とともに深い感謝の意をささげ、御冥福をお祈りさせていただきました。

また、歯科医学の発展及び研究のため動物実験に供された動物の冥福を祈る慰靈祭も執り行い、命を捧げ犠牲となった多くの実験動物に対し、感謝の念を表しました。

② 講堂で執り行われた慰靈祭の様子



※COVID-19…新型コロナウイルス感染症(Coronavirus Disease 2019)の略称です。

## Close-up

## 大学関連情報

「2019年度 ベストティーチャー賞」の表彰式が、2021年3月に執り行われました。学生や教員からの授業評価が高かった分子情報生化学分野の古株教授と顎口腔機能矯正学分野の郡司掛病院講師が受賞しました。

### 「ベストティーチャー賞」受賞後、喜びのコメントが寄せられました。



九州歯科大学歯学部  
分子情報生化学分野

**古株 彰一郎 教授**

2004年九州歯科大学卒業。埼玉医科大学研修医、助教を経て2010年に大学院を飛び級で修了。ハーバード大学へ留学後、2014年本学准教授。2018年より現職。

このたびは栄誉あるベストティーチャー賞をいただき誠にありがとうございました。

大学を卒業してから本学に赴任するまでの10年間、学生に講義や実習をした経験はありませんでした。そのため赴任当初の講義や実習説明は大変拙いものであったと恥ずかしく思うとともに、当時の学生には申し訳なく思っています。そのような状況の中で、当時の上司であった自見英治郎教授に、講義資料の作成の方法や分量などを丁寧に指導いただいたことが今回の受賞につながったものであり、大変感謝しております。



今後もさらに創意工夫し、幅広い視野を持って生涯にわたり主体的に学習・研究していくことのできる歯科医師の育成を目指し、生命現象を分子レベルで解明する生化学・分子生物学の醍醐味を学生に伝えていきたいと思います。



九州歯科大学歯学部  
顎口腔機能矯正学分野

**郡司掛 香織 病院講師**

北九州市出身。九州歯科大学歯学部卒。同大学院修了、歯学博士。2007年より九州歯科大学助教、2020年より病院講師。

この度はベストティーチャー賞を授与していただき、誠にありがとうございます。大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。なにより顎口腔機能矯正学分野の皆さま、ご指導いただいたきてきた諸先生方に心より感謝申し上げます。

歯学部学生に対する教育内容は非常に多岐にわたります。一つ一つ全てが大切ですが、その中でも私が専門としている歯科矯正学の面白さ、素晴らしさを学生に伝えたいと思いながら講義、実習を行っています。私自身が歯学部学生のときに矯正歯科治療を受け、歯並びが改善することで、咬みやすさなどの機能的な面だけでなく、歯の移動によって顔立ちが変わり、顔を隠さずに笑うことができるようになる体験をしました。私が感じた矯正歯科治療が精神的にも影響を与えるという感動を多くの学生に伝えたいと思っています。まだまだ教育者として未熟ではございますが、今後も科学的根拠に基づいた専門的知識を修得させるだけではなく、自ら考え、問題解決できる歯科医療人の育成に努めてまいります。この度は本当にありがとうございました。

#### ベストティーチャー賞の選考基準

- ① 学生による授業評価及び同僚による授業評価の評価点数の合計が、全ての被評価者のうち上位20位以内であること。
- ② 前年度の個人業績評価の評価結果がSまたはAであること。
- ③ 次の各号に相当する教育を担当していること。  
ア:1単位相当以上の講義(合計8回以上)を行っていること。  
イ:前号のうち、講義以外の教育(演習又は実習)を担当している場合は、その合計が1単位以上に相当する場合に限り、4回を上限として講義回数とみなすことができる。
- ④ 前各号の全てに該当する者の中、①の評価点数の合計が1位及び2位の者をベストティーチャー賞受賞者として選考する。

## 大学からのお知らせ

### 本学の歯科医師国家試験の合格率と近年の留年率について

歯学部歯学科を卒業し、歯科医師国家試験に合格すると歯科医師免許が与えられ歯科医師としての第一歩を踏み出すことができます。さまざまな社会情勢の変化を受けて、歯科医師国家試験のいわゆる「難易度」は上がる傾向にあり、特に2012年以降の総合合格率(全受験者数に対する合格者数の割合)は60%台が続いており、この数字だけを見ると大変厳しいものになっているように見えます。しかし、厚生労働省の資料を注意深く見てみると、新卒受験者数に対する合格率はそれほど低いものにはなっていません。一般的に、国家試験合格率は、前述した「総合合格率(全受験者数に対する合格者数の割合)」と「新卒合格率(新卒の受験者数に対する合格率)」として報道されることが多く、特に「新卒合格率」は、大学の卒業認定によって合格率を上げることが事実上可能になっています。すなわち、歯学科6年生は国家試験の受験出願を11月頃に行いますが、その後、卒業試験等の成績不良者を卒業させなければ国家試験

が受験できず受験者数は少なくなるため、当該大学の「新卒合格率」は高くなります。また、大学によっては、多くの学生が留年しており、6年間で卒業できない実態もあります。そこで、大学における歯学教育の質を正しく評価するための指標として『最低修業年限合格率』と『留年率』が注目されています。『最低修業年限合格率』とは、大学入学時の当該学年学生数を母数として、在学中一度も留年せず6年間で卒業し、その年の国家試験に合格した学生の割合を表しています。下のグラフに示している通り、本学の過去5年間の『最低修業年限合格率』は国立大学の平均をほぼ上回っており、2020年の第113回歯科医師国家試験の『最低修業年限合格率』は全国公私立大学中1位、2021年の第114回歯科医師国家試験では全国2位の成績を収めています。また、『留年・休学者の割合』も非常に低いことが示されており、本学における入学後の教育の質が高く保たれていることがわかります。

#### 最低修業年限合格率

[過去5年間]



(文部科学省高等教育局医学教育調査)

#### 歯学部(歯学科)における留年・休学者の割合

[過去5年間]



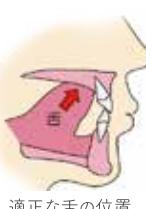
(文部科学省高等教育局医学教育調査)



## おくちのお話

### 「あなたの舌の位置は、お口の中のどいですか？」

あなたの舌の位置は、今お口の中のどいにありますか？食事や会話のときに無意識に動かしている舌ですが、リラックスしているとき、もしくは飲み込むときの舌の正しい位置をご存知でしょうか。正解は、舌の先は上の前歯の少し後ろの位置、舌の広い部分は上あごの歯の内側の歯ぐきに軽く触れている状態が正しい位置です。もし、舌を上下の歯の間に挟んだり、突き出したりしていたら、それは「舌の癖」です。



舌の癖があると、サ行やタ行などの発音がはつきりしない舌足らずの発音になつたり、上下の前歯がかみ合わない咬み合わせ【開咬(かいこう)】の原因になつたりして、顔立ちに影響することもあります。舌は味を感じるという役割以外にも、ハキハキ話したり、飲み込みを助けるなどの役割があります。舌は筋肉の塊なので、使わないどんどん鈍つていきます。舌の筋肉が衰えると飲み込むときにムセたり、口の中に食べ物が残りやすくなったりして、むし歯や歯周病の原因にもなります。子どものときは正しい舌の動きや機能の獲得、お年をとってもはそのままです。歯科医院で行なうことができます。舌の癖や食事の時のムセが気になる方は一度歯医者さんに相談してみてはいかがでしょうか。

九州歯科大学歯学部顎口腔機能矯正学分野  
病院講師 郡司掛 香織

### ご報告

### 九州歯科大学基金のお知らせ

#### 九州歯科大学基金へ多大な貢献をいただきましたことをご報告します。

本学の「新たな時代に対応できる柔軟な判断力と問題の自己解決能力を有する創造的医療人を育成する」などをはじめとする、数々の教育研究目標を達成するために、「国際的口腔保健活動のフロントランナー育成」事業を現在展開しております。

その事業を支援する目的として、九州歯科大学基金を創設しており、令和3年9月30日までに、皆さまからいただきました寄附の申し込み状況は、法人・団体様等より125件で寄附額8,253,428円、個人様より190件で寄附額5,475,020円となりました。日頃より温かいご支援をいただき、心より御礼申し上げるとともに、ここにご報告いたします。

本基金による「国際的口腔保健活動のフロントランナー育成」事業では、具体的に右記のような取り組みを行ってまいります。

**ご寄附に関する窓口** 公立大学法人 九州歯科大学 九州歯科大学基金事務局(担当:総務課)  
〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1  
TEL:093-582-1131(内線7211) FAX:093-582-6000

#### 取り組み

- グローバルな視野をもった医療人育成支援  
海外の大学との連携強化および国際交流活動の推進、学生国際交流活動推進プログラムの運用支援
- 学生・大学院生・留学生の奨学金の確保  
大学における奨学金の効率的かつ実効的な運用支援。大学が主体的に運営するための基金の確保
- 大学主導のリカレント教育の強化  
あらたな医療技術普及活動・歯科医療人再教育活動の推進支援

詳しくは、HPをご確認ください。



### 編集後記

広報誌Platys3号では2つの特集を企画しました。特集1はコロナと本学の教育について学長と学部長の対談、特集2は学生さんが同窓会長にお尋ねする企画です。片山会長も有松会長も温かく語っていただき、柔らかな雰囲気の中で秋山さん、蓮井さん、松本さん、伊東さんと貴重な時間を過ごすことができました。皆さんの会話でプロフェッショナル・アイデンティティがより高まることに感謝します。一日も早くコロナを乗り越える日を迎えることを祈念いたします。記事や企画のアイデア、もしくはご質問等がありましたら広報までご連絡ください。

九州歯科大学 副学長 木尾 哲郎

#### 【表紙写真について】

九州歯科大学の講堂の2階ホールを上部から撮影したものです。講堂棟については2006年冬に竣工し、400席以上の席を備えており、入学式や卒業式などをはじめとしたさまざまな行事や歯大祭のイベント等にも使用されています。また、1階には食堂とラーニングコモンズカフェが配置されています。昨今のCOVID-19禍において、歯学科・口腔保健学科の合同講義をホールで実施する際は、表紙写真のように学生の座席を指定し、学生間の間隔を広げています。

九州歯科大学広報誌「Platys [プラス]」へのご意見・ご感想をお待ちしています。  
✉ e-mail:kikaku@kyu-dent.ac.jp  
本誌についてのご意見・ご感想をメールにてお寄せください。いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。

九州歯科大学の情報は、  
Web上でも  
ご確認いただけます。



大学HP



大学広報

